

9月・歴史研修会

「南山城の史跡を訪ねる」 川井秀夫

正にミラクル。大型台風の接近・秋雨前線の停滞に警報発令のリスクが予想されたが、天佑神助か、当日は曇天ながら雨の洗礼もなく、参加者25名の熱意が作用したのかも・・・。

「やましろ」は上代から「山背」「城州」と呼ばれ、大和の隣国として平安京を結ぶ官道が栄え、物流の要地として歴史を紡ぎ、文化、史跡、社寺仏閣が多く見られる所以である。

今回、木津川左岸の地域を通し、継体天皇即位から大和入りの苦難の足跡を追い、古代から室町期に到るゆかりの地を訪ねてみた。

祝園神社:崇神期に当地の支配者であった武埴安彦命が謀反のため討伐され処刑されるが祟りを恐れて悪霊を鎮める。正月に世事を避けた「いごもり祭」(居籠り)が行われる。

「祝」をホホと読むが、「葬」をハフリと読むことから対語の「祝」に転化したのかも。

湧出宮:天照大神の和魂として称徳期 天乃夫伎売命を勧請したところ豊かな水が湧き出したと言う。この地の祈雨神である。

昨岡神社・草路城址:日本史に残る山城一揆蜂起の場所。応仁の乱の余波が全国に波及したもので一向宗・国人・農民の決起が室町幕府衰退の引き金となる。



奈良街道の起点となる山本駅遺跡・寿宝寺を経て、同志社キャンパスに入る。広大な敷地に財力を誇示するように近代建築が並ぶ。敷地内には古代の遺跡が数多く、考古学ファンにとっては垂涎の場所でもあろう。時間を費やす気分になる。

筒城宮

址:継体天皇大和入りの拠点の一つだが、即位後20年の空白には謎が残る。



観音寺:キャンパスの外郭に名刹があり興福寺の末寺として寺勢を誇ったと言う。本尊の十一面観世音菩薩の艶美な細身の肢体に息を呑む。車中に戻り暫し仏像の話を一席。

締めくくりは継体即位の地、樟葉宮。交野天神社の社叢林の一角にあり1500年の時空にロマンが漂う。レクチャーを聴き、謎の天皇のイメージが浮かんでくる。



今日一番はお天気でしたが、レクチャーの古川さん、藤田さん、中井さん、交通案内の

弓場さん、チャーター便の鈴木さん、新入会の小田さん、福田さん、ご参加の皆さんのご協力に、充実した一日だったと感謝申し上げます。

これからも先人たちの歴史の欠片を拾いながら現世に投影される「何か」を探りながら楽しんで参りたいと思います。西大寺北口「波平」での打ち上げ会の盛り上がりを付記しておきます。

次回は11月15日。京都 太秦 秦氏のゆかりの地を巡ります。